

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護職員初任者研修講座Ⅱ（介護・福祉サービスの理解と医療との連携、介護におけるコミュニケーション技術、 Care Staff Beginner's Training II		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護職員初任者研修ユニット必修)	介護職員初任者研修ユニット履修者のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
「介護職員初任者研修講座Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
吉田 志保	福祉棟	授業以外の時間	授業中に指示します	
授業の概要				
<p>「介護職員初任者研修講座Ⅱ」では、介護職員初任者研修課程における「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」「介護におけるコミュニケーション技術」「老化の理解」について学習する。①介護保険制度や障害者総合支援制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割や責務の概要について学ぶ。②高齢者や障害者の個々のコミュニケーション能力を把握する方法およびコミュニケーション技法について習得する。③加齢や老化に伴う心身の変化を理解し、高齢者に多い病気と日常生活での留意点について学習する。</p>				
授業の目標				
<p>①介護保険制度、障害者総合支援制度の概要及び権利擁護や成年後見制度について説明でき、サービスの種類と内容を列挙できるようにする。 ②介護福祉士が行う医行為を列挙できるようにする。 ③共感、受容、傾聴的態度など、基本的なコミュニケーション上の留意点及び言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を説明できるようにする。 ④記録の機能と重要性及び留意点を説明できるようにする。 ⑤加齢・老化に伴う生理的変化や心理的特徴、高齢者に多い病気の特徴及び治療・生活上の留意点について説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>講義科目であるが、コミュニケーション技術についてはロールプレイやグループ演習を行い、基礎的能力を習得できるようにする。また、高齢者疑似体験から、高齢者の心身の状態に関する理解を深め、日常生活上の留意点について考える授業とする。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>①高齢者や障害者の生活を支えるための制度の要点や各種サービス、介護福祉士が行う医行為を含め、各専門職の役割について説明することができる。 ②介護職員として利用者や家族との人間関係を築くために必要なコミュニケーション技法が習得でき、チームケアにおける専門職間のコミュニケーションの方法と留意点について説明することができる。 ③加齢や老化に伴う心身の変化、高齢者に多い病気に関する知識をもとに、高齢者支援の要点を述べるができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価の方法・授業中の留意点など） 介護・福祉サービスの理解と医療との連携① 介護保険制度創設の背景と目的、動向、基本的なしくみ			
第2回目	介護・福祉サービスの理解と医療との連携② 給付の種類、認定の手順、制度を支える財源、組織・団体の機能と役割			
第3回目	介護・福祉サービスの理解と医療との連携③ 医行為と介護			
第4回目	介護・福祉サービスの理解と医療との連携④ 訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念			
第5回目	介護・福祉サービスの理解と医療との連携⑤ 障害者総合支援制度 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援制度のしくみ			
第6回目	介護・福祉サービスの理解と医療との連携⑥ 個人の権利を守る制度の概要			

第7回目	介護におけるコミュニケーション技術① 【演習】 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、コミュニケーションの技法	
第8回目	介護におけるコミュニケーション技術② 【演習】 利用者・家族とのコミュニケーション実際	
第9回目	介護におけるコミュニケーション技術③ 【演習】 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際	
第10回目	介護におけるコミュニケーション技術④ 【演習】 記録における情報の共有化、報告、コミュニケーションを促す環境	
第11回目	老化の理解① 【演習】 老化に伴う変化の特徴、高齢者体験グッズによる疑似体験	
第12回目	老化の理解② 老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響 〈高齢者疑似体験のレポート提出〉	
第13回目	老化の理解③ 高齢者の病気の特徴	
第14回目	老化の理解④ 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点	
第15回目	老化の理解⑤ 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の視点で評価する。教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問すること。また、コミュニケーション演習や高齢者疑似体験に積極的に参加し、学びを共有すること。
レポート	30%	「コミュニケーション演習」と「高齢者疑似体験」の振り返りレポートを課す。S評価のレポートは、演習体験からの感想のみでなく学びが具体的であり、コミュニケーションや高齢者支援の留意点が記述されていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	穴埋め、記述、文章の正誤を判断する問題等により、知識の確認をする。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：介護職員初任者研修テキスト1巻 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
講義・グループ演習に積極的に参加し、学びを共有してほしい。机の上に携帯電話、飲み物など教材以外のものを置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。		